

Samba サーバ設定 (教科書 P292)

学校ではいつも素材フォルダ(NT43)を利用してデータの配布をしています。この様に LAN 内の誰もが読み書き出来る共有フォルダ(フルアクセス)を作りましょう。

(0)前回行った DHCP サーバの設定削除



※Linux の IP アドレスを自動取得に変更

```
[hal@motobe ~]$ ifconfig
```

```
ens33: flags=4163<UP,BROADCAST,RUNNING,MULTICAST>  mtu 1500
        inet 192.168.19.128  netmask 255.255.255.0  broadcast 192.168.19.255
        inet6 fe80::cc6e:db23:9c5b:dd0d  prefixlen 64  scopeid 0x20<link>
```

※学校の DHCP から IP を取得している事の確認(学校では 10.65.~, UTM は 192.168.~)

(1) Samba の設定

```
[hal@motobe ~]$ rpm -q samba
```

```
samba-4.17.5-100.el9.x86_64 ←入っているはず
```

●インストールされていない時は

```
[hal@motobe ~]$ sudo yum install -y samba
```

※プロキシ設定が必要(NT43 Linux 資料 14 プロキシ設定(5 月 29 日))

①共有フォルダの作成と設定

```
[hal@motobe ~]$ sudo mkdir /Samba/share ←共有フォルダ作成 “ / ” を忘れないこと！
```

```
[hal@motobe ~]$ sudo touch /Samba/share/abc.txt ←確認用のダミーファイル
```

```
[hal@motobe ~]$ sudo chmod 777 /Samba/share/
```

```
[hal@motobe ~]$ sudo chown nobody:nobody /Samba/share/
```

←ディレクトリの所有者を nobody に変更

```
[hal@motobe ~]$ ls -ld /Samba/share/
```

```
drwxrwxrwx 2 nobody nobody 4096 7月 2 14:25 /Samba/share
```

②Samba 設定ファイルの変更

```
[hal@motobe ~]$ sudo cp /etc/samba/smb.conf /etc/samba/smb.conf.old
```

```
[hal@motobe ~]$ ls /etc/samba/
```

```
lmhosts smb.conf smb.conf.example smb.conf.old ←いつもの様に設定ファイルのバックアップ
```

```
[hal@motobe ~]$ sudo vi /etc/samba/smb.conf
```

[global]欄の設定

#13 行目の空白行に以下を追記(932 は日本語を表わしている)

unix charset = UTF-8

dos charset = CP932

#アクセス許可する IP を追記

#127.~ : ループバックアドレス、10.~ : 191 教室の NW、192.~ : UTM 使用者。 ドットが有る事に注意！

hosts allow = 127. 10. 192.

追記 (ユーザ認証なし)

map to guest = bad user

guest account = nobody

最終行(48 行目あたり)に以下 7 行追記

任意の共有名を設定

[Share]

共有フォルダーを指定

path = /Samba/share

書き込みを許可する

writable = yes

ゲストユーザー (nobody) を許可する

guest ok = yes

全てゲストユーザーとして扱う

guest only = yes

ファイル作成時のパーミッションを [777] とする

force create mode = 777

フォルダ作成時のパーミッションを [777] とする

force directory mode = 777

vi を上書き保存

③ファイルサーバ(Samba)の再起動

[hal@motobe ~]\$ sudo systemctl restart smb**[hal@motobe ~]\$ sudo systemctl restart nmb**

※Samba は smb と nmb の 2 つのサービスを使用します

[hal@motobe ~]\$ sudo systemctl enable smb

Created symlink /etc/systemd/system/multi-user.target.wants/smb.service →
/usr/lib/systemd/system/smb.service.

[hal@motobe ~]\$ sudo systemctl enable nmb

Created symlink /etc/systemd/system/multi-user.target.wants/nmb.service →
/usr/lib/systemd/system/nmb.service.

※Linux の起動を行なった時に Samba を自動的に起動するように設定する

④Firewall 設定

```
[hal@motobe ~]$ sudo firewall-cmd --zone=public --list-services --permanent
cockpit dhcp dhcpv6-client ftp http ntp ssh
```

※FW の現状確認

```
[hal@motobe ~]$ sudo firewall-cmd --add-service=samba --permanent
success
```

```
[hal@motobe ~]$ sudo firewall-cmd --reload ←FW の再起動
success
```

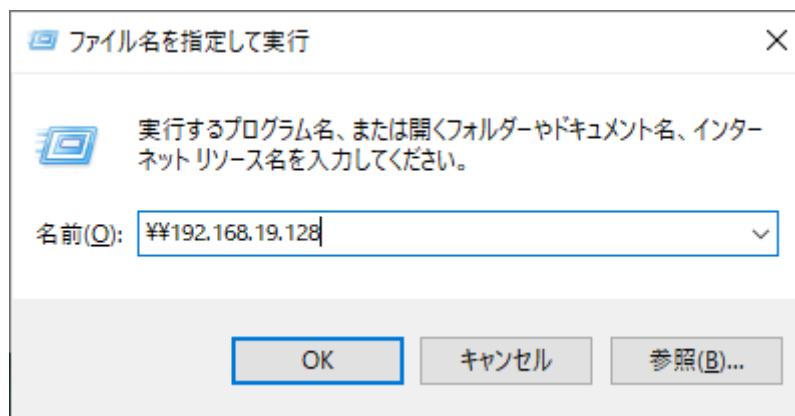
```
[hal@motobe ~]$ sudo firewall-cmd --zone=public --list-services --permanent
cockpit dhcp dhcpv6-client ftp http ntp samba ssh
※Samba が登録されました
```

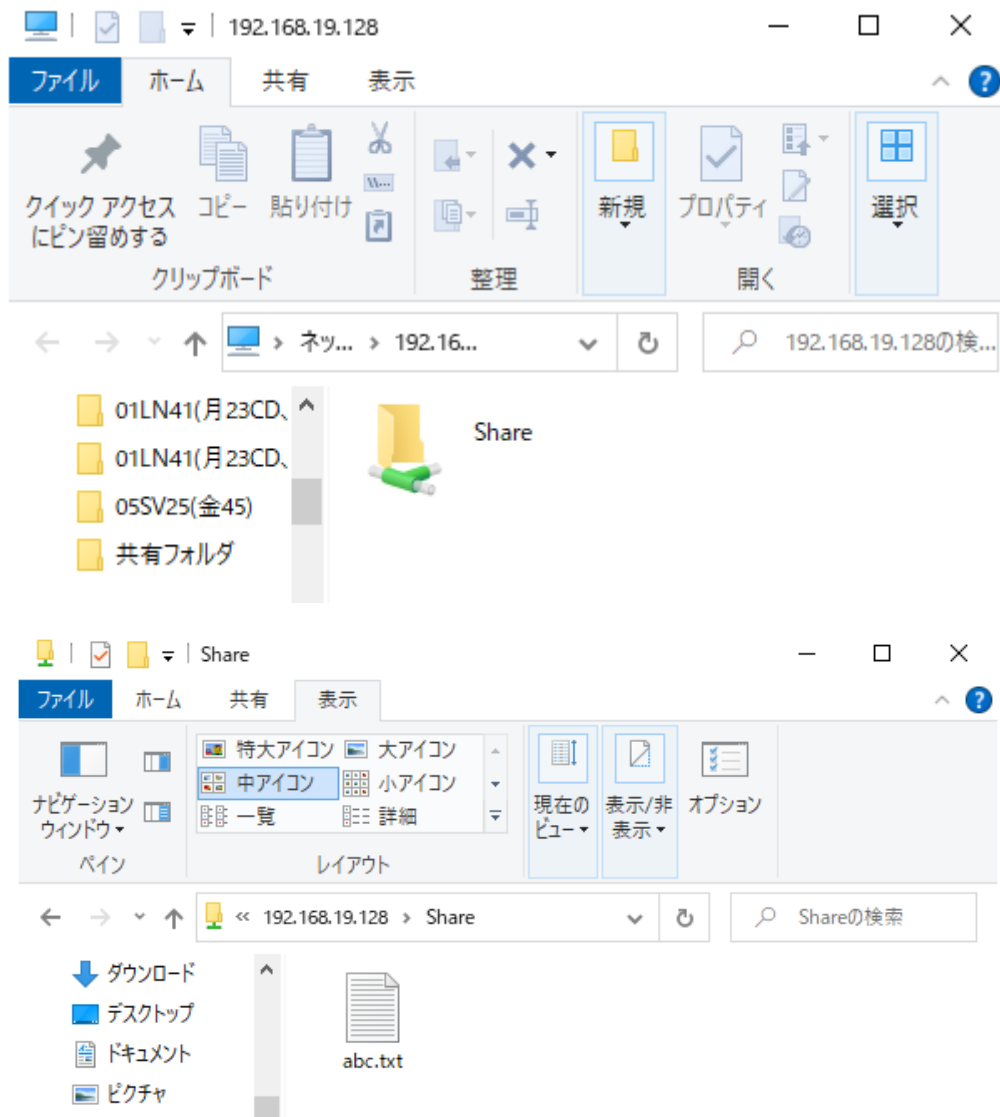
(2)共有フォルダへのアクセス確認

①Windows

素材フォルダと同じ様に Linux の共有フォルダへアクセス

「~~¥¥~~Samba サーバー(Linux)IP アドレス」と入力 ←学校の共有サーバへのアクセスと同じ
共有フォルダ Share とファイル abc.txt が見えれば OK





※上記の IP アドレスは 192.168.42.2 ですが、学校では 10.～です

●確認事項

①share フォルダ内に何かファイルかフォルダを作成出来る事を確認

②abc.txt のアクセス権は読み取り専用なので変更は出来ません

←変更したいならアクセス権を変更すれば良い

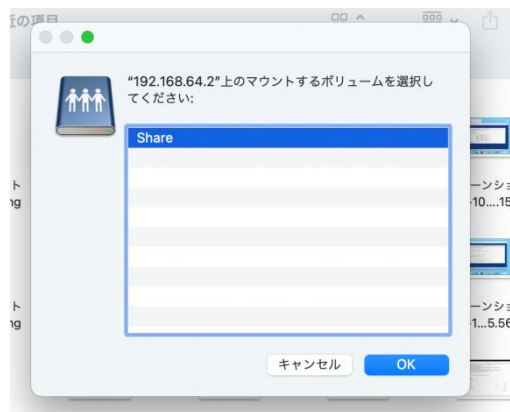
②MAC

Finder → 「サーバへ接続」 から 「**smb://Linux の IP アドレス**」

→ 「**ユーザの種類**」を「**ゲスト**」



※上図のサーバの IP アドレスは自分の **Linux** の IP アドレス



※共有フォルダの **share** を選択

※特に **VirtualBox** を使用している方はコピペが出来ないのでこの **abc.txt** などを使って **Linux** に授業 pdf のデータを渡せば楽になりますよ！

●上手くアクセス出来ない時は

1. 設定は正しいか？ ←**smb.conf** を変更したら **Samba** を再起動し忘れないように
2. **Linux** のファイアウォールに **Samba** を登録しているか
3. **Window** のファイアウォール(ウイルス対策ソフトも)が今だけ外れているか
4. **SELinux** が無効になっているか(有効だと接続できません)

※[hal@motobe ~]\$ getenforce

Enforcing ←SELinux が有効になっています

[hal@motobe ~]\$ sudo setenforce 0

←これで一時停止になります。後は時間のある時に NT43 Linux 資料 03 インストール後の初期設定(5 月 8 日改訂版)参照して、完全停止しておいてください。 ←必須！

(3) ネットワークドライブ設定(ここは任意、必修ではありません)

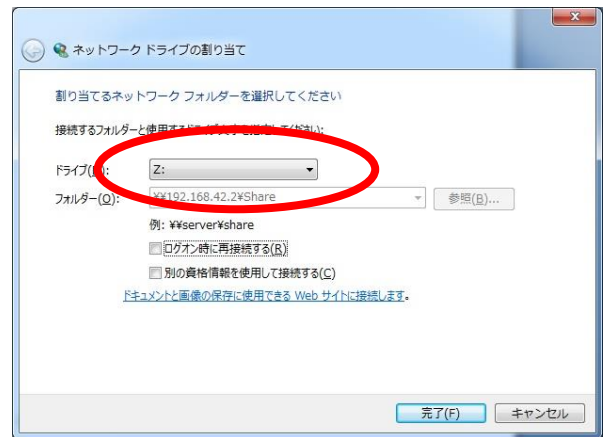
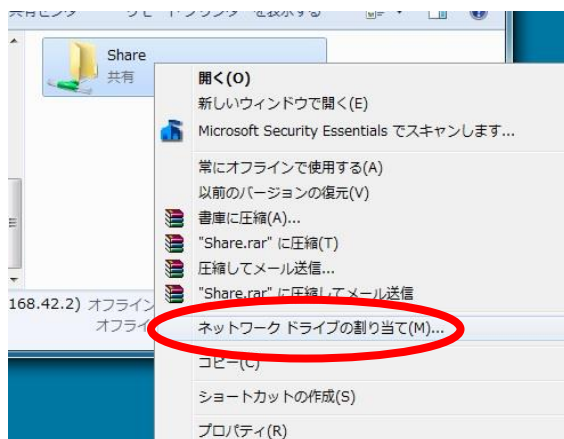
クライアントの Windows 側での設定

① ネットワークドライブの作り方

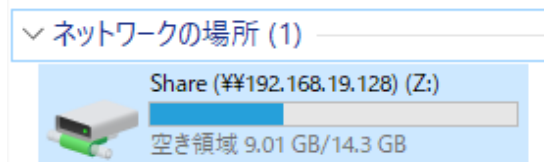
共有フォルダ(share)の上で右クリック → [ネットワークドライブの割り当て] → [完了]

※ドライブ欄は好きなアルファベットを選択 ← 「コンピュータ」を開いた時に表示されるアルファベットです。

※フォルダの欄に「¥¥(ファイルサーバーの IP アドレス)¥share」と指定します。



※実務では「ログオン時に再接続する」にチェックを入れた方が便利ですが、授業では外しておきましょう。



ネットワークドライブの完成！

この様に共有フォルダを登録しておくとな楽にアクセス出来ます。

※当たり前ですが Linux を終了すると共有フォルダにアクセス出来なくなるので、授業終了時はネットワークドライブを切断(右クリックで“切断”)して下さい。切断しないと Windows にログインする度にエラーが出ます。

以上！